

大南信也さん (NPO グリーンバレー理事長)

事前インタビューより

「NPO で働いとるんで？」と、よう人に聞かれるんよな。本業は土木屋。建設と生コン会社を経営しとります。若い頃から仕事で他人に負けとうないという思いが強くて、徳島県で一番質の高い工事のできる会社を目指しとった。で、三十代後半には、優良工事コンクールの県知事賞とか、土木部長賞とか、を毎年総なめ。この時点でエンジニアとしての所期の目標は、ひとまず達成したかなあっていう感じ。目標、低すぎ！（笑）。半分燃え尽きたというか。ほんで、こう考えた。この仕事って僕がやらんかって、他の人にでもできるんよな。そんなんやのうて、自分にしかできへんことってあるんとちゃうかなと。

これにはひとつ伏線がある。徳島市内の高校に進む時、神山の子はふつう下宿するんよ。その初日、下宿の隣のおばちゃんから「どこから来たん？」って聞かれて、「神山から」って胸張って答えたら、返ってきたのは「山やな」という2文字やった。それが今でもガンと頭に焼きついとる。以来「やま」としか呼んでもらえん故郷のイメージを、どうにか変えられんものかと、ずっと考えとった。後に続く世代の子どもらに同じ思いをしてもらいとうない思てなあ。

その後、大学へ進み、米国での海外体験、そして仕事をやっていく中、自分の貢献できる道は、これ（国際交流）かな？ と思うようになって、ここに照準を定めたわけ。これが「青い目の人形の里帰り」や、日本初の「アドプトプログラム」の実施、「国際芸術家村づくり」の活動につながっていくんよな。まあ、

その所為かどうかわからんけど、今では神山が「山やな」とだけで片付けられることはなくなっとる。逆に、みんながワクワクするようなイメージを持たれとると思うなあ。

ほんで、まず「国際文化村」から始めようということになった。これは元々県のプロジェクトやったやけど、県営の施設も将来は、住民が運営する時代がやってくるやろなという予見があったよな。それやったら、最初から自分らの考えを盛り込んだものを作っとかんとやり直しはきかんということになって、自分たちが主導して、自発的に考え始めたわけや。あの頃神山でアートを始めるいうたら、突拍子もないことやった。中には消極的な人もおった。けど最初は「〇〇さんが言い出した芸術家村」っていう感じやったものが、議論しとる度に「みんなで生み出した芸術家村」という感じに育って行って、みんなが支え始めた。この力は大きい。

でも人間いろいろおるから、昔の失敗を例に挙げて止めといた方が無難という連中もおった。アイデアキラーというやつやなあ。この時にも出現したんやけど、「できない理由よりできる方法を」「とにかく始めろ」という二つの言葉で負かしてしもうた。過去の失敗の分析だけでは何も新しい展開は生まんのよな。「できない」方やのうて、「できる」部分に焦点を当てるわけよな。人ってポジティブに考え始めたら、いろんなアイデアが湧き出てくるもんよ。ポジティブ・シンキング！これがスタンフォードで得た最も大きな考え方もわからん。ほんで、方法を見つけたら、とにかく一度小さく試してみる。これがグリーンバレーの流儀や。何につけても。

グリーンバレーでは、「難しい」「できない」「無理だ」という言葉は不思議と出てこん。

新しい問題にぶちあたったとしても「どうにかやれるやろ？何か方法はあるやろう」という感じで、できない理由、できなかった理由の議論やのうて、できる方法を探す習慣がみんなの身に付いとる。これって、ほんとうにすごいこと。こんな組織って少ない。

グリーンバレーの活動っていうのは、地域の人をまきこみながら実現していくわけやから、大事なのは達成感や成功体験の心地よさをみんなで共有すること。ほなけん、何か新しいことを始める時にも、前にあんなことができたよね、今度もあの時みたいな気分になれるぞ、っていうふうに、ある意味、陶醉したような状態で展開していくんよな。情報の共有というよりは、むしろ感覚の共有なんやなあ。言葉やのうて「あの時のあの感覚」みたいな。それぞれの受け止め方は違ってはいるやのに、不思議と同じ感覚になれる。そんな気持ちを共有できる人間が何人か集まれば、必ず前に進めるんよな。

共有と言うたら、理念の共有も大切やな。この部分がしっかりしとったら、何かの問題や壁にあたっても、僕らが目指しとんはあの「高み」やで、今こんなところで悩んだら場合やないでえ、そんな風に前向きに考えられる。ほなけん、問題を問題として、壁を壁として意識せんようになれるんよな。

で、僕は、自分の名前を残したいと思うたことはない。自分が有名になりたいとも、評価されたいとも思わん。でも、後に何かを残したい。後に続く世代が恩恵を受けたり、他の場所でも展開できる世の中のベースになるようなものを。これが僕の仕事かな。ほれで、大事なことは「誰がその仕事をやったか？」やのうて、「その仕事によって、何が達成されたか？」なんよな。

まだまだわかんけど、最近、何かを残せそうな感じがしてきましたわ(笑)。昔はとにかく視界が開けなかった。ようやく見えかけたというか、霧が晴れ始めたというか「ああ、あれだ」っていうもんがぼんやりと浮かんできた。えろう時間が掛かったけど(笑)。

今やりたいことは二つやな。一つは、人が人を呼ぶ仕組みづくり。神山に一人おもしろい人がおるとする。その人に会うために、他所からおもしろい人が集まる。その集まったおもしろい人が新たなコンテンツになって、また別のおもしろい人を集める。この動きの連鎖と循環を起こす。カミヤマ・トライアングルってとこやなあ。こんな場所ができれば、お互いに持ち寄った思いが重なり、知恵の融合が進んで、世の中を切り開いていくような新しいことが生まれるはずや。もう一つは、神山で頑張りたいという若い子たちの仕事づくり。『自分の仕事をつくる』という本を書いた人もおるけど、僕は「みんなの仕事をつくる」つうやっちゃなあ(笑)。

こういう活動を長いこと続けとったら、途中で血を吐いたとか、胃潰瘍になったとかいう人も多いんやけど、僕は不思議と、そんなのとは無縁やな。変わったことと言うたら、白髪が増えたくらい(笑)。ストレスがないと言うたらウソになるけど、気が置けん仲間と一緒に創造することを楽しんどる。この「仕事のようなもの」をやとらんかったら、自分はどんな人生を送とったんかなあって考える時もあるけど、こんなにはおもしろいことはなかったやろうなあと思う。ほやけん、人生の半ばで、ちょっと違った方向に踏み出して「仕事のようなもの」に打ち込んだら今の自分は、間違ってたかったって言えるんかもしれなあ。文・編集：弘文堂編集部